

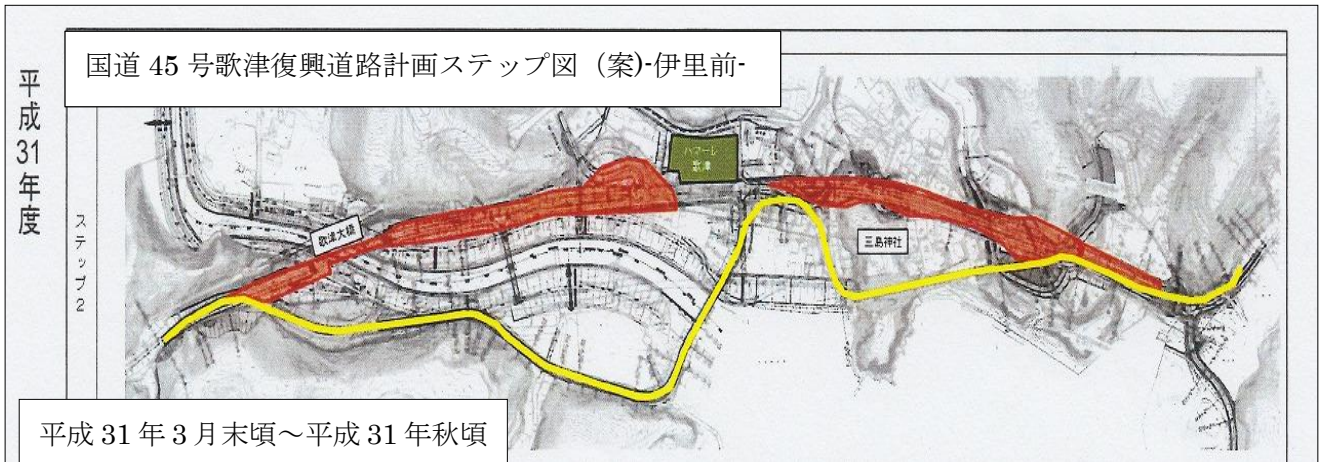
南三陸 復興まちづくり通信

第54号 (平成30年12月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



「歌津地区復興支援の会一燈」がネットワーク会議開催

歌津地区で活動を行っている「復興支援の会一燈」(小野寺寛会長、会員約50人)が9月19日、第2回ネットワーク会議を開催しました。歌津復興交流センター(旧伊里前保育所)で行われた会議には、行政区長、契約会長、自治会長、伊小校長など20人が出席。歌津地区の復興事業の進捗状況について情報を共有しました。町建設課の三浦孝課長が、歌津大橋や国道45

号線の復旧計画について資料を基に説明。「年度内に、ハマレ歌津入り口付近から三嶋神社前を通って旧歌津バイパス(歌津大橋)に抜ける迂回路を作る予定。また、県と相談して1月～2月の日曜日に、地元住民を対象に進捗状況の現地説明会を開催したい」と話しました。この日は、寄木の一般社団法人さとうみファームの活動について、金藤克也代表理事が詳しく紹介しました。



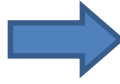
志津川中央公営住宅で草刈り&芋煮交流

志津川中央復興公営住宅(147戸)で10月14日、「芋煮会」が行われました。中央自治会と復興みなさん会が主催したもので、入居者約50人が参加。

自治会役員や笑福会のメンバーなどが、豚肉や里芋、キノコなどの入った具たくさん芋煮を作り、集会所前の広場で会食しました。この日は早朝作業も行われ、約90人が草刈り作業に汗を流しました。



(左写真は
2011年8
月撮影)



(右写真は
2018年11
月撮影)



平成の森仮設住宅の解体撤去が完了！

町内に建設された58ヶ所の仮設住宅のうち、最も規模の大きかった平成の森仮設住宅(246戸)の解体

工事が10月末に完了しました。震災前にサッカーなどに利用されていたグラウンドの復旧は新年度から始まり、2020年度の供用を目指しています。



志津川中央復興住宅住民らが「椿のタネひろいツアー」

復興みなさんが主催する「椿のタネひろい&まち巡りバスツアー」が10月18日に行われ、志津川中央復興公営住宅の入居者と隣接する中央団地の住民など20人が参加しました。志津川八幡神社や戸倉神社境内、歌津の津龍院付近で椿のタネ拾いをしたほか、みなさん会メンバーの案内で町内の復興状況を視察しました。昼食時には入谷ひころの里「ぼっかり茶家」で、郷土色豊かな「昼御膳」を堪能しました。

高台移転みねはた団地で初めての避難・防火訓練

歌津の防災集団移転「みねはた団地」(40戸)で10月28日、「防火訓練」が行われ、住民32人が参加しました。通報訓練や避難訓練の後、団地公園で広域消防職員の指導で消火器の使い方を確認しました。訓練後は集会所で「芋煮会」を開催。肉や里いも、ゴボウなどの野菜がふんだんに入った芋煮とおにぎりを味わいました。この催しには県の地域コミュニティ再生支援事業補助金が活用されました。



【あしがき】

復興工事も終盤を迎えた。震災遺構の防災対策庁舎を見降ろすように震災復興祈念公園になる丘が土盛りされている。追悼と慰霊の場所になると聞いているがその詳細は見えない。

頂上には名簿安置の碑が設置され、犠牲者名簿の収納スペースが造られるという。広島の平和記念公園方式とのことだが、他の市町では石に名前が刻まれるものになりそうだ。広島では毎年被爆者が亡くなると死没者名簿に書き加える必要があるが、南三陸も犠牲者が増えるというのだろうか？意図が見えない。復興みなさん会では避難路に椿を植える活動をしており、新しい公園にも椿が植えられるよう願っている。犠牲者の安らかな眠りと町の安寧を願う場所として、どんな公園を町民が望むのか議論が待たれる。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当会は今年度、宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」、南三陸町「おらほのまちづくり支援事業補助金」、東日本大震災現地NPO 応援基金【特定助成】「東日本大震災復興支援ファンド」助成金の支援をいただき活動しています。 JTNPO 応援プロジェクト助成金、三菱重工「みやぎふくしまミニ